

転職成功者が教えるスキルの磨き方、使い方 実録! 企業に買われた「私の実績」



スクールで学んだ知識が 「未経験」をカバーした

エスピー食品株式会社
海外事業室
海外ビジネスユニット

李承娟さん(26歳)

韓国の大学を卒業後、日本のIT企業で翻訳に携わる。その後、2007年4月にフードコーディネータースクール「JFCS」に入学。2007年8月にエスピー食品に転職し、現在に至る

李さんのスキルアップヒストリー

- 2007年1月 転職活動を開始し、スクールを探し始める
人材紹介会社に登録し“食”にかかわれる仕事を探す。次第にビジネスとして“食”を学びたいと考えようになりスクールをインターネットで探し始める。体験入学などに参加
- 2007年4月 JFCSに入学
フードコーディネータースクールを見つけ、入学。週に2日間、19時~21時まで通うようになる
- 2007年6月 エスピー食品の求人に出会い応募
登録していた人材紹介会社からエスピー食品の求人を紹介される。海外に日本食を広げる海外営業に興味を持つ
- 2007年7月 エスピー食品の筆記テストと面接
スクールに通った経験や自発的に作ったレポートなどで熱意をアピール
- 2007年8月 エスピー食品に入社
会社に参加し、入社後10年のコースを終えるまでスクールに強い繋がりを持つことを許可される
- 2008年4月 JFCS卒業

「大学時代、交換留学で日本に来ていたのですが、初めての一人暮らしに、外国での生活、寂しい気持ちやストレスを感じてきたのが、偶然食べたケーキでした。そこから人を癒やす「食」の分野にかかりたいと思いはじめたんです」
そう語るのは2007年8月にエスピー食品に転職をした李承娟さんだ。前職はIT企業で翻訳業務に携わっていたという。

「食にかかわりたいという気持ちは常にあるのですが、転職するには、食にまつわる経験がない。そこで、マーケティングやレストランの運営など、「食」をビジネスとして学べるスクールを探したんです」
こうして李さんはインターネットで見つけたフードコーディネータースクール「JFCS」に入学。マーケティングや商品開発について学んだ。そんなとき出会ったのが、登録していた人材紹介会社から紹介されたエスピー食品の海外営業の求人だった。

「選考中に伝えたのは、スクールに通ったり、食関連の商談会で通った経験。当時、スクールで受けていたレストランプロデュースのコンテストで、最終審査に残ったこともアピールポイントになりました。また、最終面接では自分の興味・能力が海外営業でどう活かせるのかを対応表にして提出したんです」

熱意と能力を買われ、内定を獲得した李さん。現在は香港、ベトナム、マカオ、ニュージーランドの4カ国をメインに営業をしているという。

「外国の人たちが、私が紹介した商品をおいしいと言ってくれたときは感動です。充実した毎日を送れるのも、やりたいことをあきらめず努力したからだと思います」